# 会員の声

## のどもと過ぎれば

能　登　文　敏*

オイルショック以来，カラスの鳴かない日はあっても，エネルギーということばを聞かない日はない．しかし最近の世相はどうだろう．エネルギー，エネルギーと口にはするが，8年前に抱いた危機感などどこへ行ったのかと思うほどである．

夜の街のネオンは自粛どころか，もとと変わりはなくなったし，デパートやホテルの照明もそのまま．申しわけていどにエレベータの一つくらいは休止させておく．国鉄は，背中がやけどしそうな寝台車を走らせるし，終着駅に着いた空の列車でもすぐには電灯を消そうとしない．あれこれ何とムダの多いことか．客商売はお客にツケを廻せばよいだろうが，自分のふところがいたまないかぎり，公共のエネルギーや資源など，よそごとのように思っている．電気料や灯油の値上げで騒いだことも，ましてや洗剤やトイレットペーパを求めて狂奔したことなど，すっかり忘れ去っているみたいだ．何ともみごとな健忘民族ではある．

政府も必要な石油を確保しさえすれば，こと足りると思っているのか，省エネを以前ほどは口にしなくなったようだ．大臣が省エネ服とやらで，国民の前に現われたのは2，3年前のことであったが，それも1回かぎりで翌年もという話は聞かない．線香花火的な思いつきで終っている．今のところ，石油の供給が順調に行っているし，あれもこれも，所管大臣が懸命に産油国詣でをして，御機嫌伺いをして廻ったおかげであろう．現在の生活レベルを維持するという政府の苦労は多とするが，そんなきれいごとではすまなくなる時代が必ずやって来るだろう．1980年代には，原油価格が1バレル100ドルという予測すらある．また原油の供給ストップという日が来ないとは，どうして断言できるだろうか．代替エネルギーの開発も一朝一夕にはできるものでもない．政府は，ぜいたくに慣れ切った今の水ぶくれ経済の減量について，積極的に国民の理解を求めるべきであろう．鈴木総理は，行政改革にようやく本腰を上げたようだが，ついでに消費形の産業構造の改革にも手を着けてほしいものである．

電化製品の中で，最大の愚作と思うものに鉛筆けずり器がある．省資源など，どこ吹く風とばかりサッサと鉛筆を消耗してしまう．鉛筆メーカと結託しているのではないかと思うほどだ．新学期間近ともなれば，テレビのコマーシャルに子供まで動員して，一年坊主から教えこもうとするに至っては腹が立つ．どこかの小学校の女の先生が，一年生に小刀で鉛筆をけずることを教えておられたが，なるほどと感じ入った．多少は指にけがをして血を流して，痛さをこらえさせることもよいではないか．それを機会に他人の痛みも理解することができれば，別の教育効果もあろうというものだ．子供への教育効果は恐ろしい．そんな意味では，省エネ，省資源の概念を子供の頃から身につけさせておくべきで，小，中学校の教科書にそのための題材が盛られてもよいのではないだろうか．

エネルギーは人類が生存するためには，いつの世でも必要なものである．国民の一人一人が，省エネ，省資源に徹するよう，限りあるエネルギーを，資源を大切に使うことの国民運動があってもよいと思うのである．そんな意識の向上の一助にもなればと，昨年8月大学主導形で「秋田県自然エネルギー開発協会」が設立された次第である．

* 秋田大学鉱山学部教授
〒010 秋田市手形学園町1－1